

ヘルスケア事業

執行役員 ヘルスケア事業部長 山口 達也

ヘルスケア | 事業戦略

ありたい姿

イノベーションを通じて人々のクオリティオブライフの向上を支援

3年前倒して中計を達成

	22年度	23年度	25年度(中計)	25年度(新)
売上収益	993億円	950億円	900億円	見直し中
営業利益	115億円	110億円	100億円	

実績と運営方針

■ ライフサイエンス FY22：前年比3割以上増収

- ・ハイエンドシステム製品のシリーズ化、クラウドを含む製品やサービスなど新製品を継続的に投入
- ・アプリケーション開発を強化して創薬分野を軸に民間市場を開拓し、二桁成長を目指す

■ アイケア FY22：前年比約3割増収

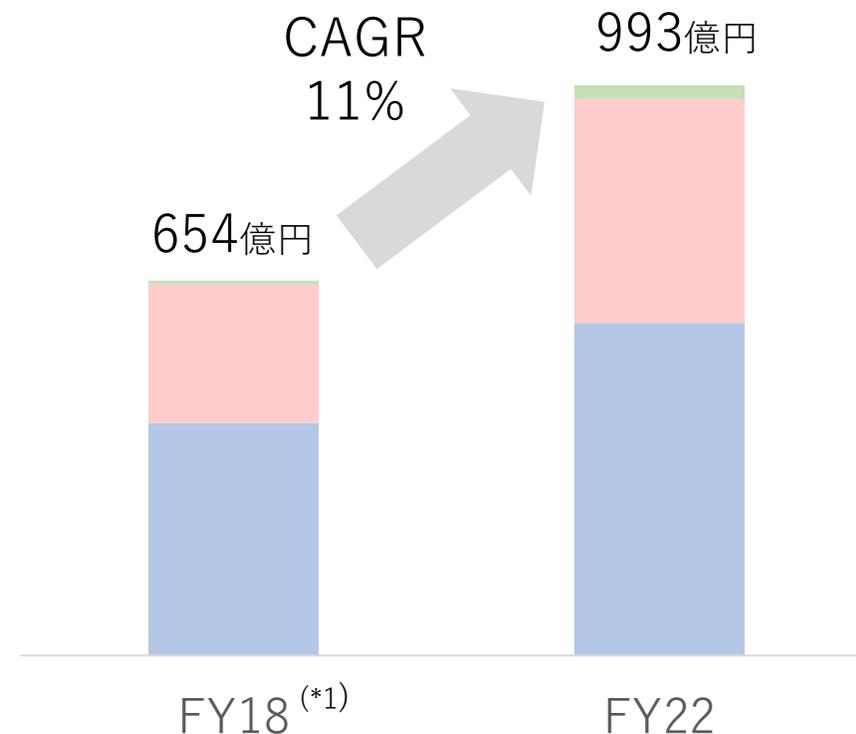
- ・安定的な市場成長に沿ってグローバルに営業力を強化中
- ・新たな診断機能やモダリティ開発で持続的成長を目指す

■ 細胞受託生産

- ・国内認可済みの再生医療等製品の生産受託で複数の実績を積み上げ、品質技術に関する市場評価は定着
- ・海外で認可済みの製品や国内外で認可取得の可能性の高い有力なプロジェクトの獲得を通じて、ビジネスのスケール化を目指す

ヘルスケアの売上成長

■ ライフサイエンス ■ アイケア ■ 細胞受託生産



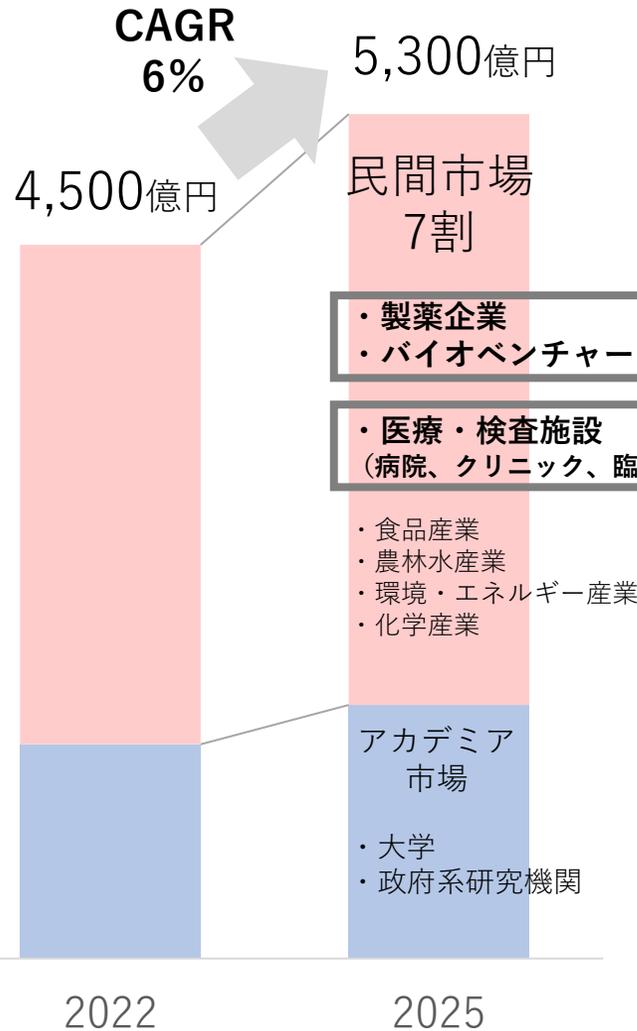
市場ニーズに沿ったソリューション提供によりビジネスは順調に拡大

*1：2017年6月事業部発足

[ライフサイエンス] 安定的に拡大する生物顕微鏡市場で新たな価値を創造

市場規模

生物顕微鏡市場：4,500億円^(*1)



[注力分野]

①創薬支援 CAGR 7%

画像解析による薬の有効性や安全性評価、細胞生産の自動化を支援

②デジタル病理 CAGR 12%

病理診断の遠隔支援、症例画像の共有やワークフローの改善

成長性

- ・生物顕微鏡市場のCAGRは6%、うち創薬支援分野は7%、デジタル病理は12%の成長を見込む

ニコンの差別化技術(イノベーション)

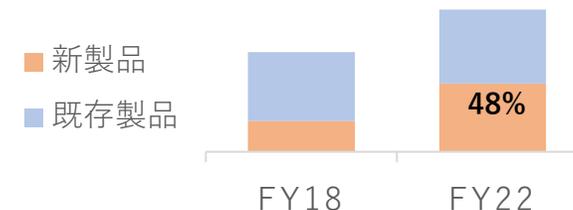
- ・神経細胞や組織の微細構造を捉える光学技術
- ・AI等の先端技術を活用した画像処理や解析技術
- ・機器やソフトウェアを組合せたソリューション力

アカデミア研究で培った源泉技術

- ・世界屈指の研究機関との強固なネットワーク
- ・共同開発による開発サイクル加速と高付加価値化

当社ライフサイエンス売上：好調な新製品

当社売上成長：CAGR 9% (> 市場成長：6%)

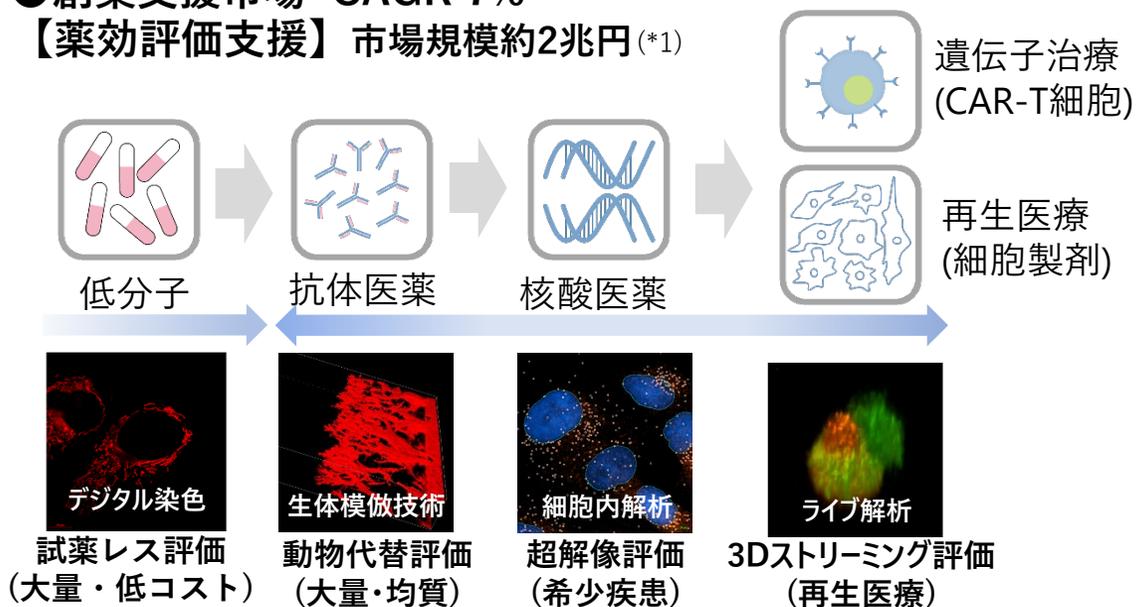


*1：市場規模及び割合は各種調査データに基づく弊社推定値(2022年顕微鏡及び周辺機器,ソフトウェア含む)

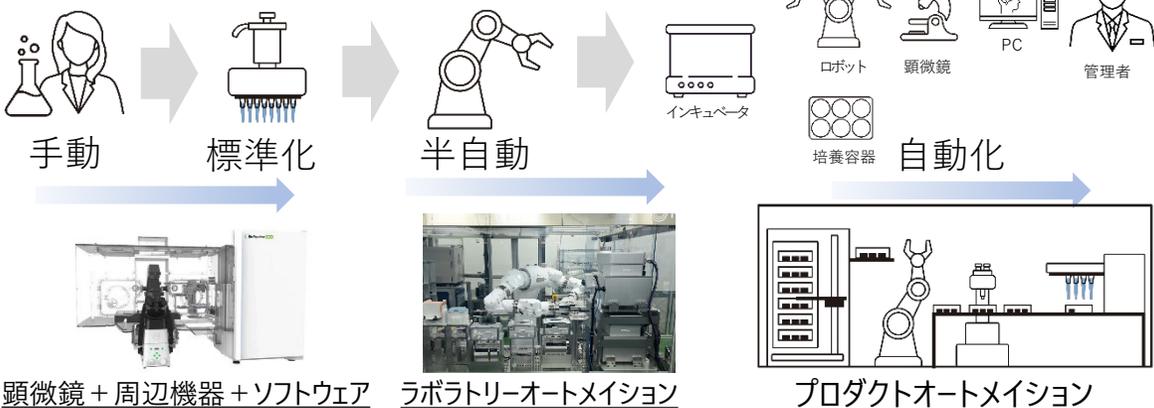
[ライフサイエンス] ①創薬支援(薬効評価・細胞生産支援)でのビジネス拡大

多様化する医薬品開発を画像解析と自動化で支援

●創薬支援市場 CAGR 7%
【薬効評価支援】市場規模約2兆円(*1)



【細胞生産支援】市場規模約2,000億円(*2)



グローバルな創薬支援施設の拡大で顧客と伴走

- ・日米欧で創薬支援拠点を開設し、民間企業へ受託事業を開始
- ・各拠点でグローバル標準サービスの展開とR&D機能を強化



事業成長を加速し市場成長を上回る売上拡大を目指す

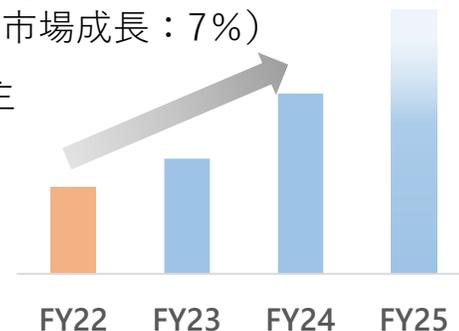
当社売上成長：CAGR40%超
(> 市場成長：7%)

【売上】

- ・顧客は製薬企業、バイオベンチャーが主
- ・受託解析依頼はFY22から急速に拡大

【今後の展開】

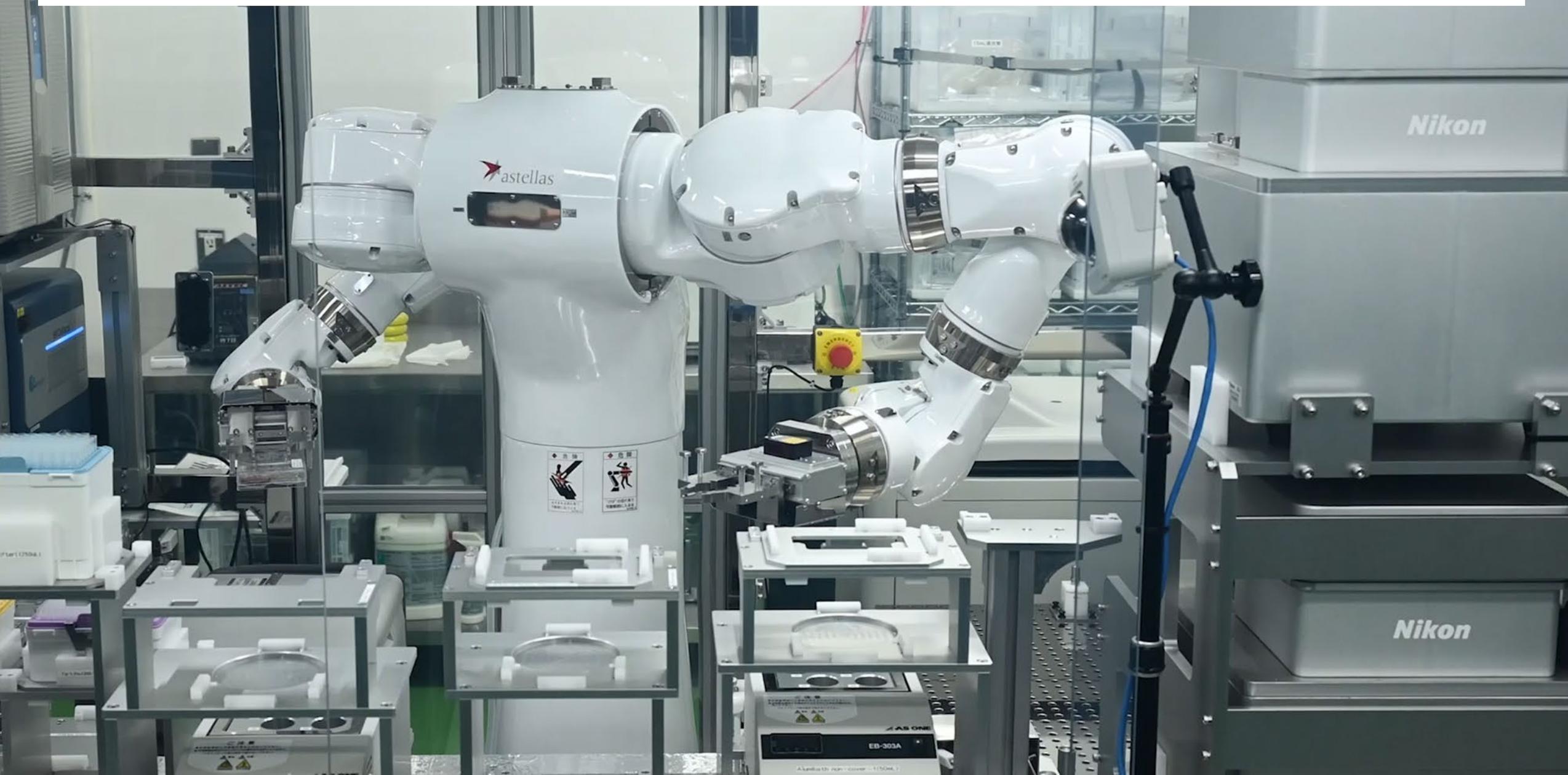
- ・施設拡張と開発拠点の立ち上げ



*1: MARKETSSANDMARKETS CELL-BASED ASSAYS MARKET GLOBALFORECAST to 2025

*2: MARKETSSANDMARKETS CELL CULTURE MARKET GLOBALFORECAST to 2024

動画：Nikon Well-Being 眼科疾患治療に細胞の自動製造で挑む
<https://www.healthcare.nikon.com/ja/well-being/detail17.html>

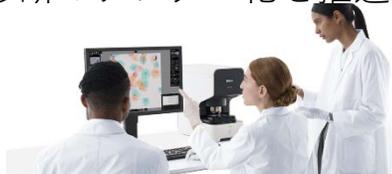


[ライフサイエンス] ②デジタル病理での成長

病理診断のDX化でワークフローを効率化

Step1(デバイス)：日本初 医療用デジタル顕微鏡の投入

- ・ 簡単操作、病理診断のデジタル化を推進する新しい医療機器



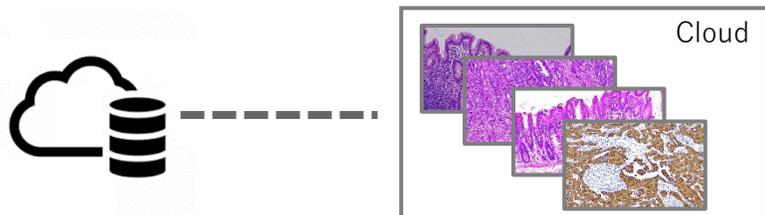
Step2(ICT(*1))：遠隔病理で診断精度や術中診断を支援

- ・ 従来の病理診断ワークフローを変えるリモート診断機能

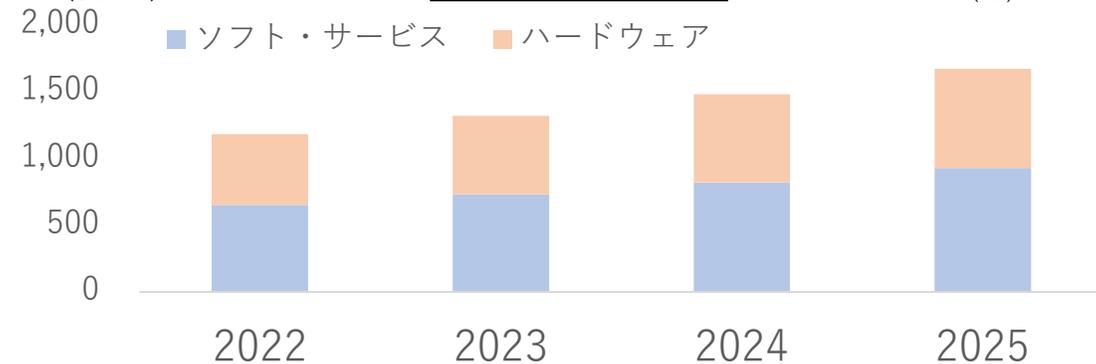


Step3(クラウド)：病理画像を共有しカンファレンス支援

- ・ クラウドベースで病理医のワークフローを効率化
- ・ データ供覧でカンファレンス時間や場所の制約を緩和



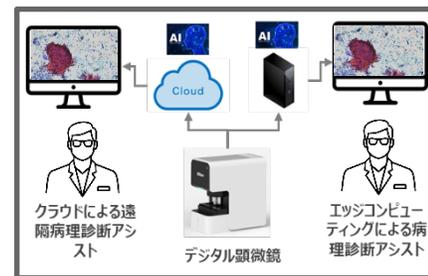
デジタル病理市場 CAGR: 12% (*2)



複合データを活用した個別化医療への取組み

●AI技術を活用した病理診断支援 ソフト・サービス

- ・ AIによる病理診断アシストで病理医をサポート (Dr. with AI)



●個別化医療を見据え複合病理診断 ソフト・サービス

- ・ 病理診断モダリティの多次元化で個別化医療を促進

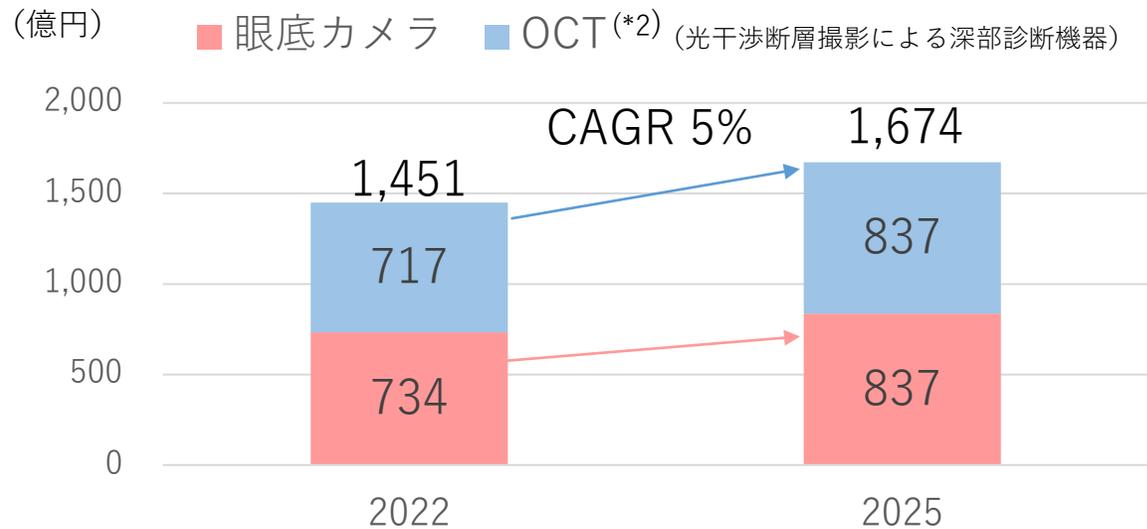


*1: Information and Communication Technology ITを活用して医師や患者のコミュニケーションを支援する技術の総称

*2: MARKETSANDMARKETS DIGITAL PATHOLOGY MARKET FORECAST TO 2028

[アイケア] 拡大する検眼市場において広視野機能で差別化

高齢化疾患・若年層の近視増加で拡大する市場 (*1)



成長性

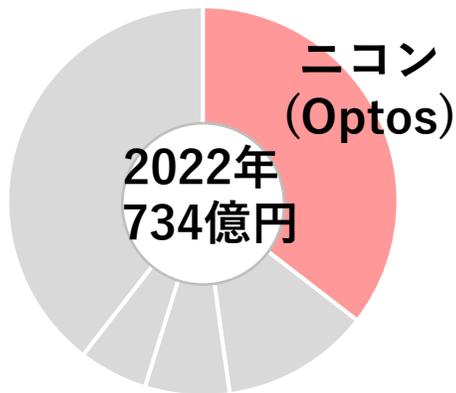
- 眼底カメラはスクリーニング市場が拡大(CAGR5%)
- 患者の増加に伴い標準機から広角機(UWF)へ市場はシフト(UWF CAGR11%)
- OCTは眼底多点診断や非侵襲深部観察ニーズの増加で安定した市場成長率が期待される(CAGR5%)

ニコンの差別化技術(イノベーション)

- 複数機器の診断結果の活用で複合診断を推進
- 継続的な機能性向上やクラウド活用による診断ワークフローの改善で付加価値を向上
- ニコンの光学技術と子会社Optosのレーザー技術を活用した新たな診断機器の開発

眼底カメラ金額市場シェア(*3)

ニコンアイケア製品

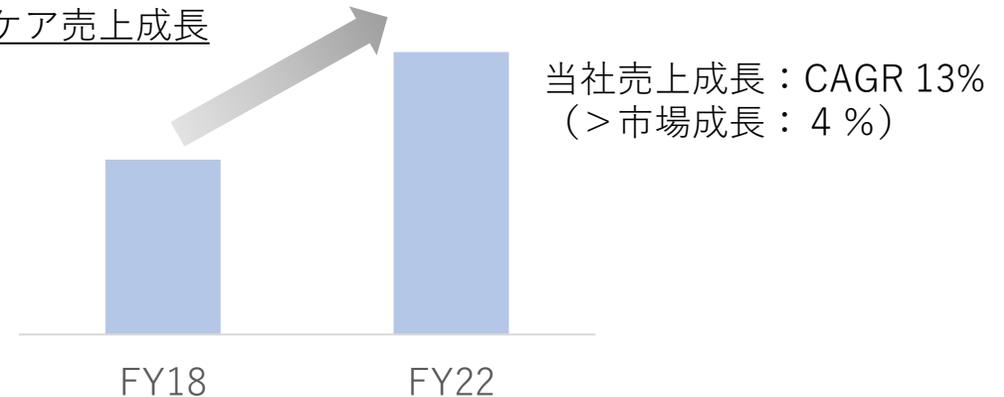


Silverstone
OCT内蔵眼底カメラ



California
眼底カメラ

当社アイケア売上成長



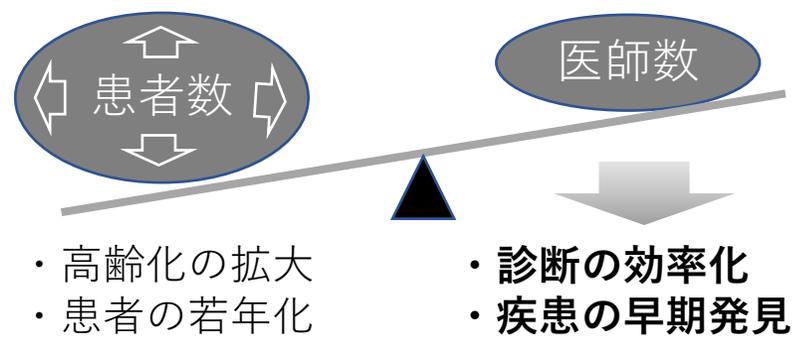
*1：市場規模は各種調査データに基づく弊社推定値

*2：OCT(Optical Coherence Tomography,光干渉断層計)光を使って網膜や角膜を画像診断する技術

*3：MarketScope 2022-Ophthalmic-Diagnostic-Equipment-Market-Report

[アイケア] ニコンとOptosによる技術シナジーと事業成長

患者数と疾患増への対応

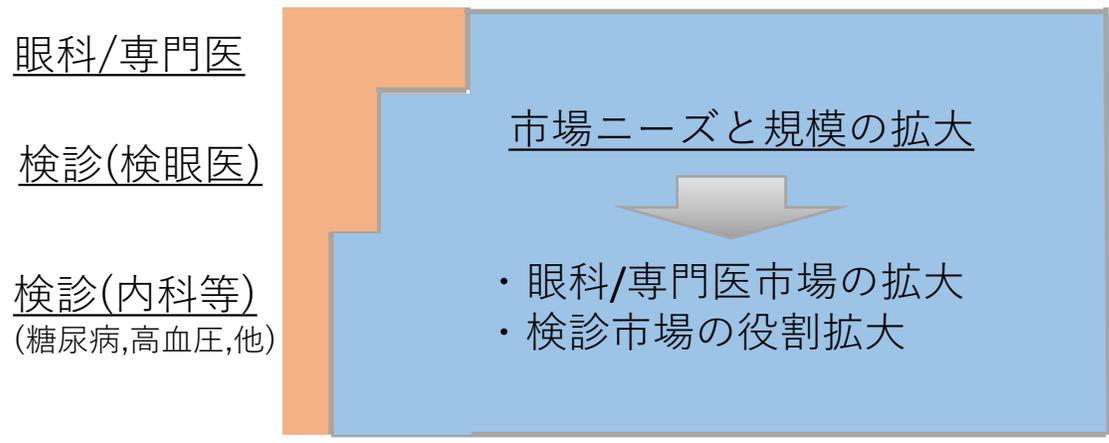


市場ニーズと技術

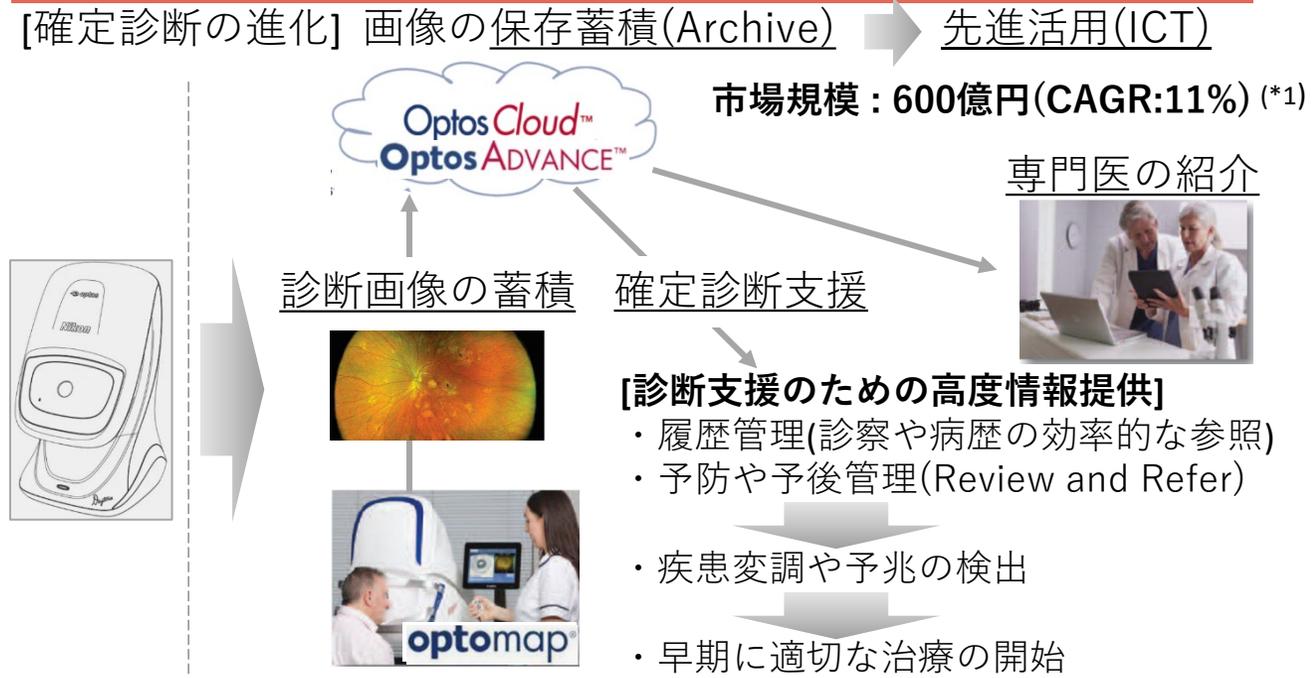


顧客セグメントと事業機会

- ・ 平均価格 : 広角機は標準機の**数倍**
- ・ 広角機普及率 : **2割未満**
- ・ 事業成長率 : 広角機(**13%**) > 標準機(5%)



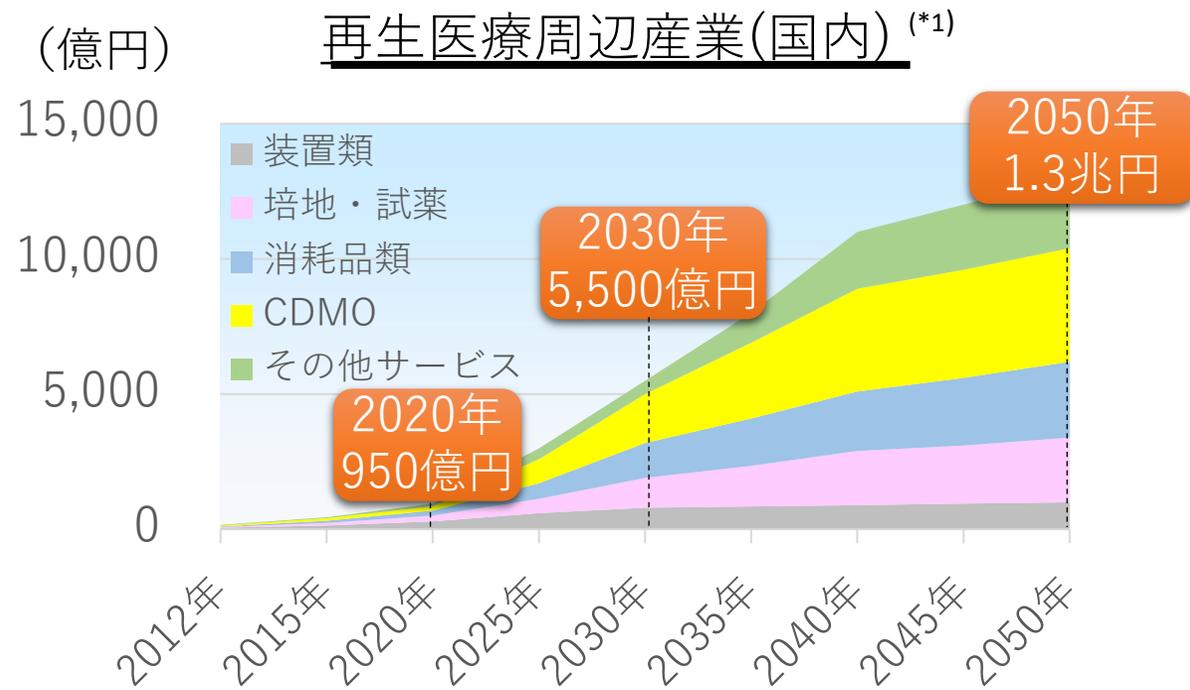
ソリューションによる診断進化



*1 : MarketsandMarkets 2027年時点の「Fundus Imaging Screening System市場 + 眼科AI市場 + 眼科PACS市場の合計」

[細胞受託生産] ブレークイーブンから利益貢献フェーズへ

市場規模



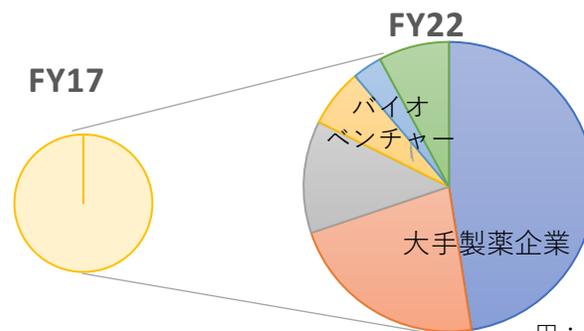
成長性

- 再生医療周辺産業のCAGRは19%予測 (2020年~30年)
- CDMOはCAGR28%予測で最大のマーケット
- がん、心臓病などのアンメット・メディカルニーズへの取り組みが特に期待される

ニコンの差別化技術(イノベーション)

- 細胞受託生産世界最大手のLonza社との業務提携
- 商用化に対応できる日本最大級のGCTP/GMP (*2) 準拠の生産施設 (7,500㎡) を保有
- 受託に特化し、プロセス開発から商用生産まで一貫した受託サービスの提供が可能

当社受託規模と疾患の多様化



円：受託額、色分け：対象疾患を表す



*1：令和2年3月 経済産業省 再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた評価検討会 資料を元にニコン予測

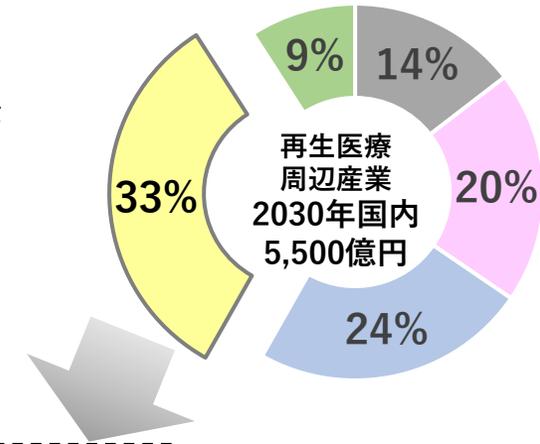
*2：GCTP(Good Gene, Cellular, and Tissue-based Products Manufacturing Practice)：再生医療等製品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令
GMP(Good Manufacturing Practice)：医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令

[細胞受託生産]

- 装置類
- 培地・試薬
- 消耗品類
- CDMO
- その他サービス

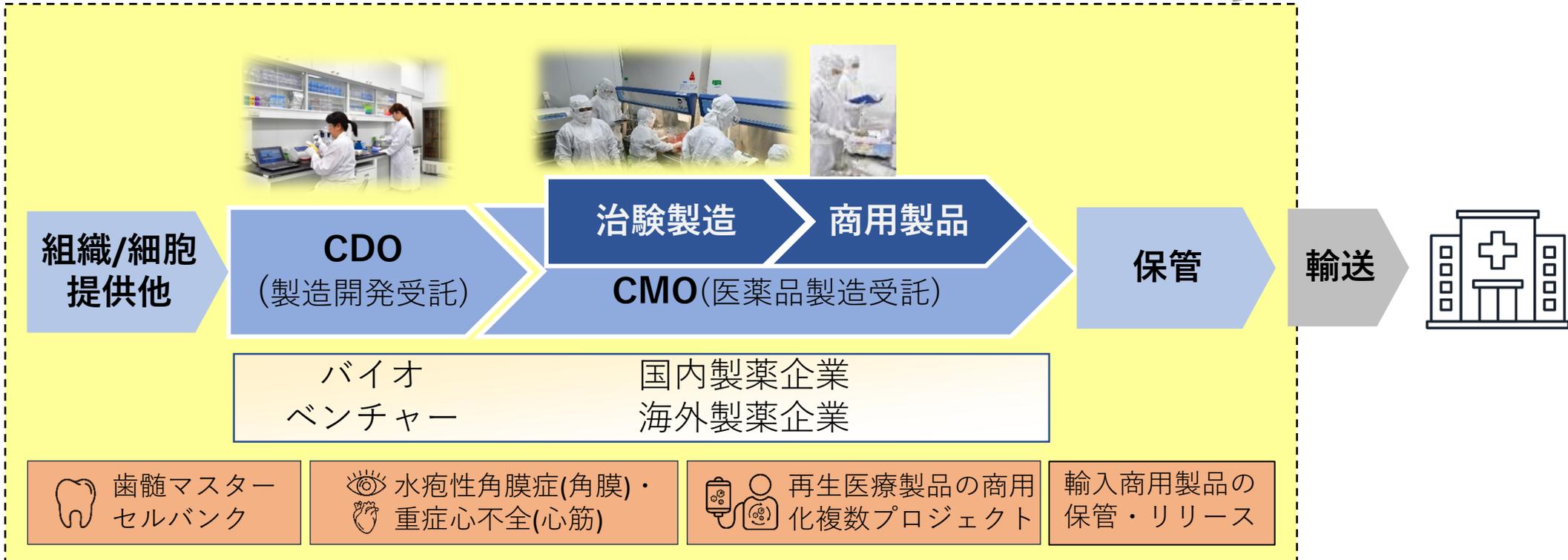
事業ビジネスモデル

- ・ 製造開発の初期段階から商用化を意識したプロセス開発、アッセイ開発をサービス提供
- ・ PMDA^(*1)審査承認済みの複数の商用製品を製造
- ・ 国内、海外顧客からの受託治験も含めた数多くのプロジェクトを保有
- ・ 取扱い可能な細胞種は免疫細胞(T-Cell)、iPS、間葉系幹細胞(MSC)まで幅広い実績があり、着実にノウハウを蓄積



事業ドメイン

- 価値連鎖
- 顧客セグメント
- 各種プロジェクト



*1: 医薬品医療機器総合機構(医薬品や医療機器などの審査・認証等を担う厚生労働省管轄の独立行政法人)